

## 行政生協連絡会議が札幌で開催されました！

10月20日と21日の両日に渡って、北海道・東北地方行政生協連絡会議が開催されましたので、報告致します。この会議は毎年10月ごろ東北6県と北海道を循環して開催される会議で、昨年、青森県に続いて今年は北海道がホスト県として開催されました。

会議は、道庁赤レンガ会議室で開催され、厚生労働省2名（山本室長、鈴木主査）、北海道5名（赤平市職員含む）、他県5名（岩手県欠席）、生協7道県連12名、日本生協連4名、地連2名、合計30名の参加者がありました。

主催者挨拶では、道庁と道生協連麻田会長より挨拶があり、来賓挨拶では、厚生労働省の山本室長から、地域生社会づくりに対する生協への期待と、生協の取り組み事例を市町村へ積極的に発信していきたいとい



うご挨拶を頂きました。

また実践報告として、『「まる元」運動の仕組みを高年齢化社会のコープ商品に育て、普及したい』について、北海道生協連川原事務局長が報告し、まる元を育て、普及したい理由は、①参加者の素敵な笑顔と大きな笑い声②インストラクターの若者のひたむきさ③地域で、行政と民間が知恵を出し合っている取り組みである④まる元は高齢者社会で目指したい一つの姿であることが強調されました。

『地域まるごと元気アッププログラム(通称「まる元」)』および『ゆるゆるまる元(通称「ゆる元」)』について、NPOソーシャルビジネス推進センターの相内理事長（小樽商科大学特認名誉教授）から、これまでの取り組みの経過を含めた詳細な報告がありました。



相内理事長

翌日は、まる元「余市教室」の視察を、28名参加で行い参加者は短時間でしたが、まる元運動の実体験と、参加者とスタッフとの懇談を含め有意義な視察となりました。最後に、次年度の開催県を岩手県とすることを確認し終了しました。

## (お知らせ) 北海道生協連創立60周年講演会企画

\* 和田 寿昭(日本生協連専務理事)

テーマ「日本の貧困化の現状と生協の課題」

日時 1月17日 15:30

ホテルポールスター札幌

\* 金子 勝(慶応大学教授)

テーマ「新自由主義グローバルリズムの本質と暮らしへの影響」サブタイトル「トランプ政権によって何が変わるか」

日時 2月6日 13:30

ホテルポールスター札幌

# 生★活★ク★ラ★ブ

10月30日(日)札幌コンベンションセンターで「わくわくまつり」を開催しました。今年は冬の訪れが早くこの日も木枯らしが吹く寒い日でしたが、日本ハムファイターズが日本一になった興奮と熱気が相俟って、オープニングから盛り上がったわくわくまつりとなりました。生活クラブのまつりは1984年からはじまり「生き活きまつり」「命(いのち)のまつり」「わくわくまつり」と続き、今年で32回目を迎えました。名前は変わってきましたが、生産者と組合員が作り上げていく熱いおもいは変わっていません。



加入歴1年未満の組合員に招待状を送り約50人が来場。実行委員が相談にのりながら自分にとっての生活クラブを熱く語る。

今年も模擬店では組合員と道内の生産者がタッグを組んで消費材の美味しさをアピールしました。まつりの数か月前から準備をすすめる内容、ネー

ミング、看板など工夫を凝らしており10以上ある飲食ブースはどれも人気で列を作っていました。

あそびコーナーはさかな

つりやヨーヨーつり、ペットボトルボウリングがあり10円玉を握りしめた小さなお子さんがたくさん来てくれました。

生活クラブが行っている運動を伝える「くるとわかるコーナー」でも牛乳の飲み方提案、ひろしま平和行動報告、森の材料でオーナメント作り、Rびんで輪投げなど楽しくためになるコーナーとなりました。

まつりにはたくさんの人が関わっています。「つくる手食べる手 その手はひとつ」をスローガンにみんなの力がひとつとなったわくわくまつりでした。



生活クラブのサークルが子どもたちにわかりやすく憲法の大切さを教える

## 『様々な学びとつながる中高生の居場所 「ゆるきち」オープン』

NPO法人Kacotamは、児童養護施設や母子生活支援施設、ひとり親家庭、生活保護世帯の子どもたちを対象に全17ヶ所で学習支援をしています。その活動を通して様々な背景をもつ小学生～高校生の子供たちと関わってきました。その子供たちは、施設の職員さんや親御さんの「子どもにもっと学ぶ機会をつくりたい」という思いからご連絡をいただくことで関わることが多く、子どもの教育に関心をもつだけの余裕が無い家庭の子供たちとは関わることができませんでした。また、「もっとメンバーと話したい」、「少しでも長くカコタムに居たい」という声から多くありました。

これらの現状を踏まえて、子どもが一人で来ること

ができ、直接接点を持つことができる場、時間に余裕のある場を作りたいと考え、今まで学習支援を通して関わってきた中高生とともに、11月8日に一軒家を活用して中高生の居場所「ゆるきち」を立ち上げました。

「ゆるきち」では、自分の思いや言動が大事にされ、ルールやしぼりが少ないようなゆるい空間を大事にしています。その空間では、子どもたちが世代や文化、環境が異なる学生、社会人との関わりを通して自分の「やりたい」を見つけ、社会との接点をつくりながら、カタチにしていけるようサポートしていきます。また、ゆるきちが子どもたちの「学びのつなぎ役」として他の学びの場や団体等につなぎ、子どもたちにとって学びの機会が広がる場としていきたいと思っています。



ゆるきちミーティング風景



ゆるきちゲーム風景